

選書の法則：

S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (23)

吉植 庄栄

23. オレのランガナタン没後 50 周年

1. 行った・立った・話した

第四法則くんのターンが終わったので、恒例のエッセイを書く。昨年令和4(2022)年はランガナタン生誕130周年・没後50周年の記念の年なので、筆者はイベントや講演に呼んでもらえるなら全国どこにでも行くと誌上で宣伝した。結局、大変ありがたいことに4回講演をさせて頂いた。この場を借りて、企画・声かけ・運営といった面でお世話になったすべての方に御礼申し上げる。今回は、この4回を振り返ってみようと思う。

2. それぞれの経緯や内容

(1) 令和4年度花巻市立図書館第1回スキルアップ講座 図書館学者 S. R. ランガナタン没後50周年記念『図書館の五法則』と新しい花巻図書館：図書館業務の神髄からこれからのを考える(令和4年6月5日(日))

令和3年度中に、花巻市立石鳥谷図書館長(当時)からご提案頂いたものである。現在、従来の花巻図書館が築50年を経て、老朽化と狭隘化が問題となっている。新館計画の策定が進み各種構想資料が提示されているが、まだ実現していない。この新館計画を絡めてランガナタンや『図書館学の五法則』の紹介を是非お願いしたいとのことだった。

盛岡から南に約30kmに位置する花巻市は、宮沢賢治(1896-1933)の街として著名なほか、花巻温泉や台温泉、鉛温泉等の多種多様な温泉がある観光地である。良く練られた新館計画は非の打ち所がなく、筆者が何か意見するものでは無い。ゆえに、計画案に書いていないことをランガナタンの考えを基に少々追加する程度にした。

当日の会場は、宮沢賢治先生のお墓から至近の花巻市文化会館大ホールである。この大ホールは、200人も入る大きなものだった。こんなでかいと緊張するだろうというのもあったが、より心配なのは

集客である。当日ガラガラだと意気消沈である。実際は満杯ではないが閑古鳥が鳴くほどでもなかったもので、ほっとしたものである。特に嬉しかったのは、近隣大学の図書館学の先生や県内各地の図書館関係者、そして自分の学生が多数来てくれたことである。パパバコメントという参加者のコメントが流れるシステムを使ったところ、大学生を中心に質問や感想、合いの手のコメントをしばしば流してくれて盛り上げてくれた。

講演内容は、図書館の基礎知識やランガナタン、インドという国のことを知ってもらうような限りなく初歩的にして楽しめるものにした。また当日は新図書館計画室の方に途中で登壇して頂き、現在の計画を説明して頂いた。ちなみにだが、実はこの連載の第19回に登場した弟子ら(卒論指導学生)とは別の弟子に、この「新しい花巻図書館」を研究した花巻出身の者がいた。この卒論を大いに参考にして彼女の主張も紹介した。本人は来なかった(涙)ものの、彼女の思いを参加者に伝えることができたのではないと思う。

最初に提案下さった館長さんが前年に定年退職し、後の連絡諸調整を部下の司書さんが引き継いでいた。この司書さんには、この講演をはじめ、様々なことでお世話になった。この連載も毎回読んで感想をくれるような律儀な方で、これからの花巻の図書館を背負う司書さんと期待していた。しかし、今年度に図書館とは違う部局に異動させられた。花巻市も何をやっているのだと思う、やるせない。

さて、このような人事も含めて色々難しい事情はあるようだが、早く新館を建ててもらいたい。一番の問題は、建築予定地に複数の意見があり、話がまとまらないのだと言う。宮沢賢治に憧れてやってきた旅人、或いは温泉で休もうと訪れた観光客を迎え入れる入口になりつつ、花巻市民の自己教育の拠点となるような図書館がそう遠くない内に実現してくれればなあと切に願う。

(2) 日本図書館文化史研究会第2回研究例会「S. R. ランガナタン:人と生涯」(令和4年12月3日(土))

これは筆者の持ち込み企画である。事務局を担っている先生に、ランガナタンの記念の年だから何かできないか?と提案したところ、当研究会の例会で採り上げてはどうか?とご提案があった。しかし例会を筆者1人の一人会にするにはちょっとハードルが高いので、他に国内でランガナタンの研究をしている人と2人会ができないか?ということとなった。とはいえ実はランガナタンを研究している人がほぼ居ないので、非常に困った。しかし以前から筆者をよく指導してくれる方から、『現代の図書館』59巻3号(2021)に東京学芸大学附属図書館の高橋隆一郎さんという方が「ランガナタンの図書館学思想に対するマヌの影響についての概観」という翻訳原稿を發表されているのを教えて頂いた。打ち合わせの結果、この方に頼んでみてみようとなったのである。幸いこの高橋さんと旧知の方に仲介して頂き、会が成立した。筆者としても、同じランガナタンの山を登る方と出会えるのは貴重な機会だった。

当日の会場は、東京の日本図書館協会であった。筆者の出身は同じく東京であり、ここに高齢の両親は健在である。しかしこのはやり病のため、80歳を超える両親の様子を見に行くのは極力控えていた。しかし5月に母親が2か月入院した際、高齢の親父殿の陣中見舞いのため2年ぶりに数度上京した。母が夏前に退院すると今度は緊張の糸がほどけたのか、親父殿がほぼ寝たきりになってしまった。10月の長野出張の帰路、実家に立ち寄ると、親父殿はやせ細り口を開けて寝てばかりで、足は壊死寸前であった。弱気になり「いよいよ俺も終わりだ」とか細く言う。「大丈夫だからそんな縁起でも無いことを言うな」と言うと、そんな元気はあるのかと逆に感心したが怒って怒鳴られた。その日は話が全く噛み合わず1時間滞在後、筆者が痲癩を起して仙台に帰ってしまった。文化史研の講演のため12月に上京した際、両親の見舞いも兼ねて実家に泊まった。親父殿は幾分元気を取り戻していたものの、10月の喧嘩を根に持っていて筆者と話そうともしなかった。

話を講演に戻すが、日本の図書館界の中心の1つである日本図書館協会で講演できるのは本当に感無量であった。特に竹内愨先生がまだお元気だったころ、ランガナタンの読書会に招かれて先生のお話を伺ったのが同じ部屋であり、今度は自分が人に話をする側になり感慨深かった。

さてこの会での講演内容は、図書館史の研究会であることを意識し、これまで自分が書いたランガナタンの事跡関連の論文を抜粋して、1892年に産まれて1972年に生涯を終えるまでの概略をお話した。以前、図書館員に転職する32歳までの事跡は詳細にまとめたので、この機会にその続編をまとめる機会にしよう・・・と最初思ったのであるが、令和4年は特に忙しく、あまり作業できなかったのが悔いに残っている。今後、継続して研究を行いたい。

一緒に登壇した高橋さんの話は筆者とは全くアプローチが異なり、非常に興味深かった。特に『五法則』を基に現代的な課題、コロナ禍に対して図書館はどのように対応していくべきか?という実践的な所見が勉強になった。また、高橋さんから、『五法則』の巻頭のマヌの言葉は、実はランガナタンの創作だということを知り、これは本当に刮目させられた。自分の持っている息子ヨーガシュワリ氏著のランガナタンの伝記の裏表紙に実は小さくそう書いてあるのを教えてもらい、大変目から鱗だった。

(3) 日本図書館研究会第64回研究大会シンポジウム『図書館学の五法則』の実践(ランガナタン没後50年)(令和5年3月5日(日))

これは、日本図書館研究会から打診を受けた機会である。久々の対面開催である研究大会の2日目のシンポジウムのテーマに、記念の年であるランガナタンを取り上げたいというご提案だった。シンポジウムなので、多くの登壇者による様々な発表や質疑応答が展開されるかと思うと、非常に楽しみであった。シンポジウムの構成については、『五法則』の法則それぞれに関連する研究者や実践家を充て、それぞれランガナタンの現代的意義や実践紹介してもらおう、というアイデアを採用してもらえた。その結果、自分は「報告1 ランガナタン『図書館学の五法則』再考:本の利用が当たり前になったこ

の時代に」というタイトルで基調講演と第一法則を担当するほか、次のようなメンバーがそれぞれの担当の法則に基づき発表を行った。

報告2 Every person / Every book に図書館は寄与できているのか：利用研究から見る第二・第三法則の現状 / 佐藤翔（同志社大学免許資格課程センター准教授）

報告3 第四法則 利用者の時間を節約せよ：ヴァーチャルレファレンスサービスのこれからを考える / 松野南紗恵（明治大学大学院文学研究科博士後期課程）

報告4 有機的であること：Growing organism-Organic Organization-Network communication / 平賀研也（日本大学芸術学部非常勤講師，前県立長野図書館長）

この時の会場は、同志社大学今出川キャンパス良心館という立派な建物である。会場に着くと、業界の有名な先生が多く参加されており、急に緊張したのを覚えている。内容については、学会なのでそれなりにアカデミックな内容にした。自分の話の最後の方は、第一法則に基づき現代の諸問題の所見を述べたが、「図書は利用するためのもの」を、コロナを言い訳にいと簡単に現場の人や当局が無視することや、「限られた少数にその人の本を」という格差が起きていること指摘した。話す内に何だか腹が立ってきて、熱くなったことを覚えている。

全員の登壇が終わった後、登壇者による全体討議にも参加して、本当にお腹いっぱいな一日であった。ところで、翌日関西の図書館を弟子たちと一緒に見学する予定であった。弟子らは研究大会当日には京都・大阪にすでに全員到着していたが、全員畿内観光を楽しみ、筆者の発表を聴講しようとする者は皆無であった。後で聞くと、皆はそれぞれ図書館の見学をしていたらしく、大学生らしくU○Jで遊んでいた訳ではないようなので、そこは許したい。

(4) 日本図書館協会図書館政策セミナー『ランガタン『図書館学の五法則』を学ぶ』（令和5年3月12日（日））

これは、この日本図書館協会の図書館政策企画委員の方から打診があったものである。この方は竹内哲先生の高弟で、前述した読書会時代に知り合うことができた。その後は中々お会いする機会も無かったが、現在の職場の先任の同僚の先生が大学で同級生であったというご縁もあった。また竹内先生が逝去された令和3(2021)年10月以降、連絡を取り合う機会が増えた。やり取りをするうちに、ご自分が所属するこの委員会の企画行事として、是非登壇してもらいたいとの有難いオファーを頂いた。ちなみにこの方は(2)～(4)まで全部会場に来て聴講して下さいました。本当にありがたかった。

さて、この会では、主な聴講者である図書館政策に関わる方々向けに理念的な話を前半にした。また学校図書館関係者が多いとのことだったので、後半はランガタンの学校図書館観も話した。場所は(2)と同じで日本図書館協会であった。年度内に2回もこの会場で登壇できたことは、大変名誉なことである。ここでも終了後は多くの質問を頂き、関心を持ってもらえた手ごたえを感じた。

3. おわりに

このように4つの会を振り返ったが、とにかく運よく無事に登壇できて良かった。4回とも重複する内容もあるものの、基本は別テーマにてお話できたことは、我ながら15年以上研究してきた甲斐があったものである。聴講した皆さんに少しでもランガタンの紹介と印象付けができていれば、本懐である。

後日談である。ある日、ランガタンがかつて活躍したチェンナイ（当時はマドラス）の図書館員と別件でチャットをした時のことだ。その際に「昨年はランガタン没後50周年であり、インドでは多数のイベントがあったろうけど、渡航して参加できなくて残念である。」といったことを送信したところ、

没後50周年という観点では祝わない。むしろ生誕130周年は祝う。そういえばランガタンが図書館長になったのが1924年で、来年はその100周年だからインド全国で図書館関連団体が色々な祝賀行事を実施するだろう。

と返信が来た。日本では七回忌といった法要の感覚があるが、仏教の本家本元のインドにはそのような感覚は無いようだ。また、まさかライブラリアンに転職して100周年祭をすることは思ってもいなかった。これは驚くとともに来年こそ再渡航したいものだと思つた。

4. その後の親父殿

(3) と (4) を終えた3月のお彼岸の頃、親父殿は普通に歩けるようなくらい回復していた。車に乗せるので、一緒に千葉県にある先祖代々の墓参りをしようと誘ったが、自信が無いと言って頑として言うことを聞かない。が1時間の説得後、なんとか連れ

出すことができた。墓参を終えて以降の親父殿は遠出できたことが大変ご機嫌で、延々としゃべるようになった。さらに現在は、〇〇〇の美術館に連れて行ってくれとせがむ始末である。東北から車で来いというので、非常に面倒くさい。まあそう遠くない内に親孝行はするが、しばらくは食傷気味である。

実は第四法則くんの江戸っ子言葉は、親父殿が日々喋るそれをイメージして書いたものである。今回の連載で親父殿の没後弔文を書くはめにならず、その点も非常にほっとしている。残念なことに大変面倒くさい人なので、積極的に一緒に居たいとは思わないが、長生きは今後もして欲しいとは思っている。(よしうえ しょうえい：盛岡大学文学部)

DMがたろく

明日への日本歴史

2023年8月完結
全4巻

五味文彦

古代国家と中世社会

政治、社会、芸能、
 絵画、考古などの
 諸分野に通暁する
 著者による日本全史、
 ここに登場

- 1 古代国家と中世社会 (5月刊行)
- 2 戦国の社会と天下人の国家 (6月刊行)
- 3 近世の政治と文化の世界 (7月刊行)
- 4 近代社会と近現代国家 (8月刊行)

定価・各2,750円(税込)予定

全て 四六判 並製

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13
山川出版社 TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 <https://www.yamakawa.co.jp/>

思春期の心と社会

メンタルヘルス時代の思春期を教え
小野善郎 [著]

◎定価1,760円
四六判/並製/208頁 ISBN978-4-571-24103-1

思春期が絶滅の危機にある今、子どもたちのメンタルヘルスを守り支えるために、大人ができることは。

心のなかはどうなっているの?

高校生の「なぜ」に答える心理学
日本青年心理学会 [企画] 若松義興 [責任編集]
大野 久、小塩真司、佐藤有精、
平石賢二、三好昭子、山田剛史 [編集]

◎定価1,980円
A 5判/並製/244頁 ISBN978-4-571-23066-0

高校生の日々の悩みの正体を解説しつつ、心理学の基本的な考え方や青年心理学の主な領域を系統的に紹介。

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-14-11
福村出版 TEL 03-5812-9702 FAX 03-5812-9705 <https://www.fukumura.co.jp>

みんなでゴスペル!

山本愛・編著 A4判 80頁 定価2,640円(税込)

子どもたちと著者の長年のゴスペル体験から生まれた、
日本ではじめてのゴスペルの教科書!

ゴスペルの基本から歌い方、歴史、曲ごとのポイント、楽譜まで…。ゴスペルの基本的なことを学べるテキストです。音源は、歌い方のお手本、ピアノ伴奏のみの2種類が入ったCDを付属。(YouTubeでも同じものが聴けます) テキストと音源を利用して誰でもすぐ教えられます! 録音技術のなかった古い時代にアフリカの人たちにより耳から耳、口から口へと歌い継がれてきたシンプルで力強く、覚えやすい8曲を収録。伴奏は小学生でもバイエル終了レベルなら練習して弾けるアレンジ。学校や、サークル、お家でも!

〒191-0041 東京都日野市南平 5-28-1-1F
朔北社 Tel. 042-506-5350 <http://www.sakuokusha.co.jp>

政治学入門

歴史と思想から学ぶ

犬塚 元・河野有理・森川輝一 著

「右」「左」「イデオロギー」「公共性」……。政治を語るうえでよく目にする言葉や政治学の基本的知識を、歴史・思想をふまえて丁寧に説明していきます。

有斐閣ストゥディア 2,530円

社会政策の考え方

現代世界の
見取図

ダニエル・ベラン/リアン・マホン 著
上村泰裕 訳

古典のレビューとともに、アイディア重視の新たな分析枠組を示し、今おさえるべき論点をコンパクトに解説した、社会政策研究の世界標準への最良の道案内。

四六判 3,080円

〒113-0034 東京都千代田区神田神保町 2-17
有斐閣 <https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は税込

S. パンティズ 編／橋本祐子 監訳

法と感情の哲学

「法」の世界から「感情」は排されなければならぬのか？ 6600円



松田克進

スピノザ学基礎論

スピノザの形而上学 改訂版 基本概念を明らかにする。 6380円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

地球研叢書



総合地球環境学研究所の
研究・成果を分かりやすく伝え、
人と地球の未来を考えるシリーズ



現在 26 巻刊行、ぜひお揃えください！

定価：各 2310 円～ 3080 円（分売可）

図書
出版

昭和堂

〒 607-8494

京都市山科区日ノ岡堤谷町 3 - 1
TEL075-502-7500 ※価格 10%税込

インフルエンサーの ママを告発します

ジェ・ソンウン 作 チャ・サンミ 絵 渡辺奈緒子 訳

【対象】小学校高学年～

SNSに許可なく人の写真を
載せるのは、なぜいけないのか？
自分がイヤだと思ったときに、
どう行動できるのか？ 1980円

**SNSを使うすべての人
必読のものがたり**



晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

CGは数学で できている

映像数学の展望

安生健一 [著] ●7月中旬刊/B5変型判

映像制作に不可欠なCGは数学でできていた!? CG表現を支える多様な数学的発想を、映像制作の第一線で活躍する著者が明らかに! 予価3520円(税込) ISBN 978-4-535-78765-0



リペア 「使い捨て社会」から 「修理・修復社会」へ

ペーテル・エールディ、
ジュジャ・スペテルスキー [著]

高見典和 [訳] ●8月上旬刊/四六判

予価2970円(税込) ISBN 978-4-535-54058-3



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎ 03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>

南塚信吾 著 「世界史」の誕生 ヨーロッパ中心史観の淵源

日本に輸入された
「世界史」のルーツとは



A5判上製カバー・304頁3850円

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

ESTRELA

■2023年6月号
No.351/6月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕メッシュ統計の最新動向

- 世界メッシュ統計の統合利活用基盤とその実証実験を行って
佐藤 彰洋(横浜市立大学データサイエンス学部・大学院データサイエンス研究科教授)
- 欧州におけるメッシュ(グリッド)統計の標準について
西 文彦(横浜市立大学データサイエンス学部客員教授/(公財)統計情報研究開発センター主任研究員)
- 人流メッシュ統計データを使用した宿泊者数推計シミュレーションについて
松井 伸司(総務省統計品質管理推進室参事官補佐)
佐藤 彰洋(横浜市立大学データサイエンス学部・大学院データサイエンス研究科教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>